

## 嬉野医療センターを受診された患者さまへ

### 研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	(第108回 日本消化器病学会 総会) 当院における早期胃癌に対する内視鏡治療の現状
研究責任者(所属名)	黨 和夫 (消化器外科部長)
本研究の目的	ESD(endoscopic submucosal dissection)手技の普及に伴い早期胃癌に対する内視鏡治療の進歩は目覚ましく、当院でも消化器内科で積極的に施行されています。一方で、手技に伴う偶発症(主に穿孔)や追加の胃切除を要する症例など、症例の選択や手技における問題点も存在しています。 当院において行われている早期胃癌に対するESD手技の現状を評価し、問題点を明らかとすることで、症例の選択や手技の向上が期待できると思われま
調査データの該当期間	2015年1月から2020年12月までの6年間
研究の方法 (使用する試料等)	当院において、2015年1月から2020年12月までの6年間に胃の病変に対してESDを施行した353例を対象とし、治療成績を検証しました。 また、早期胃癌に対してESDを施行した219例において、1か所のみ切除を行った194例のうち、切除後に出血を来した群10例と来さなかった群184例の2群に分けて、病変の最大径、切除最大径、切除部位、抗凝固薬・抗血小板薬内服の有無などの周術期のパラメータを比較検討しました。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0954-43-1120 (病院代表) 担当者：管理課長
備考	